

ルソーの夢

——むすんでひらいて考——(その十五)

海老沢 敏

十、遊戯歌としての《ルソーの夢》(承前)

フリードリヒ・フレーベル(一七八二—一八五二)が長年に亘る国民教育の構想の一環として幼児教育について具体的な計画を重ね、いわゆる「ヘキングダーガルテン」の名称をもつ施設を実現したのは一八四〇年のことであった。この年の六月二十八日にブランケンブルクで催された「一般ドイツ幼稚園」の創立式典こそその記念すべき機会であった。一八四〇年代はこのフレーベルの幼

稚園活動が実践的にもまた理論的にも発展を遂げた時代であった。だが一八四八年の革命が挫折したことで反動が招来されると、たちまちにしていわゆる「幼稚園禁令」が發布され、フレーベルの幼稚園活動は政治的な判断のもとで禁止されるにいたる。一八五一年のことであった。この禁令が廃止されるのは一八六〇年であり、そのころにはフレーベルはすでにこの世にはいなかったのである。

この禁令が効力をもっていた一八五〇年代にも、フレーベル主義の幼稚園運動はドイツで地道に続けられていくのであったが、

活潑な活動力はむしろドイツ以外の地で発揮されていくのである。国内、国外を問わず、こうした「フレールベル運動」推進の中心人物であったのはベルタ・フォン・マールレンホルツ・ビュローウ夫人（一八一〇—一八九三）である。マールレンホルツ・ビュローウ夫人はフレールベル「キンダーガルテン」を英国にも紹介した最初の人物ともいわれるが、じつはおなじ時期に、もうひとり別のドイツ人とその夫人によって、じつさいにはマールレンホルツ・ビュローウ夫人の英国訪問に先立って、「キンダーガルテン」の移入がおこなわれているのである。それはドイツで「幼稚園禁令」が公布されたまさにその年の一八五一年のことであった。^(注2)

(注2) こうした点については以下の文献を参照した。

世界教育史研究会編『世界教育史大系21—幼児教育史I』

(講談社・昭和四九年)

岩崎次男・林信二郎・酒井玲子・白川蓉子・阿部真美子・

山口一雄著『フレールベル 人間の教育』(有斐閣新書・昭和

四四年)

それはヨハネス・ロンゲとベルタ・ロンゲの夫妻であり、彼らは一八四八年のいわゆる三月革命の挫折にともなうて、一八五一

年ドイツから英国へと亡命したのであった。ロンゲはフランクフルト連邦議會議員ともなったカトリックの神父であったし、夫人のベルタはフレールベルの幼児教育思想の共鳴者であった。こうしたロンゲ夫妻は、ロンドンのハムステッドに住んだあと、ヘタヴィストック街区三二番地に移り、ここの住居の一部を礼拝堂に改造し、「人道教」の宣教活動を開始するとともに、おなじ邸内で幼稚園もひらいたが、この幼児教育はすでにハムステッド在住の折にはじめられていたと考えられる。

「ヘタヴィストック街区三二番地」は、すでに紹介した「キンダーガルテン・リーダー」の出版者ボルシツキーの所番地とまさに同一のものであることが理解されるだろう。加えてこの曲集には「ロンゲの入門書に収められた三十二曲の歌曲を含む」と記されている。実際、ロンドンのこの地区の一画で、英国における「キンダーガルテン」の運動が押し進められたのである。^(注3)

そのロンゲ夫妻には『英語キンダーガルテン実用案内書』なる著書がある。

(注3) 『A Practical Guide to the English Kindergarten,

(Children's Garden), for the use of Mothers, Governesses,

and Infant Teachers: Being an Exposition of Froebel's

System of Infant Training: Accompanied by a Variety of

Instructive and Amusing Games, and Industrial and Gymnastic Exercises, also Numerous Songs Set to Music, and Arranged for the Exercises by Johann and Bertha Ronge.
London: A. N. Myers & Co., 15, Berners Street, Oxford Street, W. 1855. [10th Edition: 1877.]

ロンゲ夫妻がこの書物を著わしたのは、どのような理由であつたろうか。それは夫妻による初版の序文が語ってくれる。この『実用案内書』はフレーベルの幼児教育の体系の実際的入門書であるが、フレーベルのシステムは先立つあらゆる幼児教育法よりもはるかに改善されたものと認められている。このようなヘキンダーガルテンは、ドイツではすでに長い前から設立されていたものであるが、英国民の性格や習慣に適合したかたちでのシステムは、この国には一八五一年に導入されたのである。はじめはこうした新しい教育法にはわずかの父兄しか関心をもってくれなかったが、一八五四年にセント・マーティンズ・ホールで開催された教育博覧会が公衆の前にこのシステムを紹介するのにあずかって力があつたのだ。この博覧会には数々の玩具が展示され、ロンゲ夫人がその使用法を講義したものであつた。こうした過程を経てヘキンダーガルテンはいっそうよく知られるようになり、

父兄や教育に関心のある人たちの訪問が増えたのである。こうして玩具の使い方を父兄や保護者たちに知ってもらふ目的でこの書物は書かれたのだ。

この論旨のうちにみられるように、ロンドンで一八五四年教育博覧会が技芸協会の手でひらかれたが、マールンホルツ・ビューロウ男爵夫人などはこの機会に英国に渡り、フレーベル主義をひるめる努力をしているのである。

第二版の序文（一八五八年）で、ロンゲ夫妻は次のように語っている。「ヘキンダーガルテン」のシステムを確立するというきわめて困難な仕事の方は、まず一八五一年にドイツ（ドイツ語）で、一八五四年に英国（英語）で果されたが、この一八五四年には、たったひとりの英国人——すなわちF・H・ヒル氏（著名な郵政大臣の兄弟）が氏の子供たちを当時英語にあつた唯一のキンダーガルテンに送ってきたのであつた。このキンダーガルテンは私たちによつてタウイストック広場三二番地で経営されていた。」

『世界教育大系21—幼児教育史I』第四章第二節でも指摘されているように、ヘドイツ語で、ヘ英国語でとあるのは「」内のようにヘドイツ語で、ヘ英語での誤まりである。問題は英国でのヘキンダーガルテンの設立であり、このフレーベル主義幼稚園がドイツの亡命者によつてはじめられたことから推測され

るように、当初は英国の首都ロンドン在住のドイツ人の子弟を対象として、したがってドイツ語でおこなわれ、一八五四年からは英国人の子弟も加わったことで、英語に切り替えられたものである。こうした両国併用のかたちは、すでに紹介した《キンダーガルテン・リーダー》の《ルソーの夢》の《ドイツ語および英語の歌詞つき》からも理解されることが出来る。通常の楽譜、すなわち歌曲の楽譜では歌詞は旋律線の下、大譜表ではその譜間に書かれるのであるが、それはこの《ルソーの夢》の場合、《美しい眺め》のドイツ語歌詞ではなく、《楽しい眺め》の英語歌詞がその位置にあり、前者すなわちドイツ語歌詞は大譜表上段に置かれているのである。これはすでに英語中心でありながら、ドイツ人の子供たちのためにドイツ語歌詞をつけ加えているかたちではないかと思われる。

さらにこの第二版の序文を読み進めてみよう。ザクセン地方で成功を取めたところの幼児教育のプラン、すなわちフレーベルに発するこのシステムについて、序文では次のように説明されている。「このシステムは知的なものではあるが、真に幼児のものである。それは子供を子供として扱い、子供が自分たちで考えるよう力づけ、子供にふさわしい玩具や方法で子供が仕草においても、象形文字のような書きぶりにおいても、しだいしだいに自分

自身の考えを發展させ、自分自身の物語を語り、そして他の子供たちの話を聞くことを教える。むずかしい名前は使わないし、《垂直的》ないし《水平的》歌唱も用いないで、言われるもの、なされるものはなんでもまったくすべて子供のものであるようにかたちである。このシステムの大きな特徴は《夢中になること》である。」

いわゆる《恩物》を用いての無心の遊びなど。「こうした《無心の遊び》に取り合わされるのは歌と遊戯であり、また甘美な憩いのはだざわりの柔らかなベッドである。」私たちはここでフレーベルが《人間の教育》その他の論稿で唱歌と唱歌教育の意義について論じていることを知っているが、フレーベルの幼稚園《キンダーガルテン》の実際的な指針であるこの英語の書物でも、音楽はさらに敷衍されたかたちで幼児たちの教育の中に積極的に位置づけられていくのである。

それについてはすぐ立ち戻って来ることにして、ここではフレーベルの《キンダーガルテン》の英国における反響についてつけておこう。第二版の序文はそれについても語っているからである。この《英語キンダーガルテン実用案内書》は、まさにヘイギリスにおけるフレーベル主義運動の最初の文献^(註4)であり、前の年の教育博覧会での《キンダーガルテン》の紹介が評判を呼んで

いたこともあって、当時の雑誌がこの書物を取り上げて論じることが多かったといわれる。その中に当時の名高い大作家チャールズ・ディッケンズが主宰する《家庭の言葉》があった。その第二七八号（一八五五年七月二十一日号）にはフレীবエルとその幼稚園活動についての長くも好意的な紹介記事が掲載された。この文章はじっさいにはディッケンズのものではなく、「編集スタッフの一人である教育改革家であるヘンリー・モルレー〔モリー〕」が書いたものである^(注5)が、ロンゲ夫妻にとってはこの紹介記事は感激的なものであったにちがいない。彼らはこの記事を引用さえしているのだ。

(注4) 《世界教育史大系21—幼児教育史I—》三〇二ページ。

(注5) 同右書三〇二ページ。

「この書物を私たちは、私たちがここでできる以上にフレীবエルのシステムの詳しい知識を得たいと望んでおられる方には誰れでも参照していただくようお勧めする。この本はそのシステムがどんなものかを説明しているだけでなく、ちょっとしたこまかい^な実例をふんだんに使った、誰れにも、ただちに家庭でこれを研究し、それを積極的にやってみることを可能にしてくれるのである。

る。それは会話や遊戯を具体的に提案してくれるし、多くのフレীবエル歌曲を与えてくれるほか、会話や遊戯につけて歌われるような音楽（これはふつうポピュラーな節——たとえばメアリー・ブレイン、ルソーの夢〔傍点筆者〕等々から成っている）さえ与えてくれるのである。」

この引用文から、この《実用案内書》には《ルソーの夢》が遊戯用の曲として採用されていること、さらには《ルソーの夢》が、一八五〇年代の英国でなおポピュラーな節として親しまれていたことが知られるのである。

事実、この《英語キndaーガルテン実用案内書》の終章は《音楽体的運動》と題されている。そしてその中にはほかならぬ《ルソーの夢》の旋律が《準備の歌》の第二曲として掲げられていたのである。それは《楽しい眺め》(The Pleasant Sight)と題されている(譜例②)。

この章のはじめに同章の意義が明確に打ち出されている。「これらの(運動)はまことに重要な意味をもっている。なぜなら子供たちは飲食物を要求するばかりでなく、新鮮な空気、光、陽光の作用、それに十分段階づけられた運動をもとめるものである。〈健全な心は健全な肉体にのみ宿る〉とキケロは語っている。」¹ ロンゲ夫妻はフレীবエルが身体運動を幼児教育の本質的な部門とし

▼ 譜 例 ②

THE PLEASANT SIGHT.

How de . light . ful 'tis to see Lit - tle chil - dren
 who a - gree; Who from ev - ry - thing ab - stain
 That will give each o - ther pain; O, how love - ly
 tis to see Lit - tle chil - dren who a . gree.

て捉え、その後継者たちがこのシステムを発展させたことを指摘した上で「英語キンダーガルテン」ではさらに英国の風土や習俗に適合するように修正していると語っているが、子供たちの健康を保つためにはさまざまな配慮が必要なることを強調している。その上でキンダーガルテンの運動は次のようにおこなわれるのである。

第一に背椎の疲労を避けるために、子供はひとつの姿勢を長く続けていることが許されない。

第二にみんな一緒にやることを確実にするために動作はすべて、適当な歌に伴われる。(傍点筆者)

第三にこうした運動や遊戯はひじょうに幼ない子供たちに合わせてある。それらは子供たちによって発明され、実際に教師たちによって集められ、かつ適切な歌詞をつけて音楽化される。(傍点筆者)

(注6) 《英語キンダーガルテン実用案内書》四三ページ。

この章で実際に運動につけられる歌は全部で三十一曲あるが、それらは二曲の「準備の歌」のほか、「自然ならびに人工的動作の模倣」十三曲、「人間の仕事の模倣」四曲、「調和のゲーム」十二曲に分かれており、第二のグループには「鳩小屋」、「ヘカッ

一、〈魚〉、〈太陽系〉、〈風車〉といった種類のもの、第三グループには〈農夫〉、〈こびき〉など、最後のグループには〈子供の挨拶〉、〈小ぢやかな体操の先生〉といった題がつけられ、かつそれぞれに子供たちがどのように遊戯するかややり方が説明されているのである。ここではそうした〈遊戯歌〉の詳しい説明に立ち入ることはできないが、ほかならぬ〈ルソーの夢〉の旋律による〈楽しい眺め〉は第一曲の〈仕合せなおうち〉とともに「これらの歌や同種の歌は運動のはじめ、および第三、第四恩物によるいくつかの遊戯のあいだに歌われる」と指示されている。

(注7) 番号は三十三番までつけられているが、第七番、第三十二番が欠けているので三十一曲となる。

こうして〈ルソーの夢〉は、今や〈遊戯歌〉として、フレージャー系のキンダーガルトンの中にも確固としてその役割を見出したものであった。〈キンダーガルトンリート〉としての〈ルソーの夢〉の特徴はおよそ次のとおりである。これは〈準備の歌〉として、遊戯的な運動に入る前に歌われるものであるが、恩物による遊戯とも組み合わされており、幼児たちの身体運動と結びつけられている。そのうちに身体運動を支えるものとして、当然、単旋

律、ユニゾンで歌われる。譜例でも明らかなように、曲は長調、四分の四拍子を取り、その旋律形は、本稿第八章の異稿対照表では②と①の混淆を示している。次にこの旋律で歌われる歌詞を訳出しておこう。

小ぢやかな子供たちの仲良し姿を眺めるのは
なんと楽しいことだろう。

彼らはおたがいに苦しめるようなことは

なんでもこれを差し控える。

ああ、小ぢやかな子供たちの仲良し姿を眺めるのは
なんとすばらしいことだろう。

彼らは喧嘩の言葉はしゃべらず、

約束はけっして破らず、

冷たい顔はけっして見せない。

両の眉毛にはにこやかな愛がある。

ああ、小ぢやかな子供たちの仲良し姿を眺めるのは
なんとすばらしいことだろう。

彼らの心と思いを一つにして、

礼儀正しく、情深く、親切だ。

他人を許そうとし、

生きとして生けるものを仕合せの世にする。

ああ、小ちゃな子供たちの仲良し姿を眺めるのは

なんとすばらしいことだろう。

おうちでも、学校でも、遊んでいるときも

彼らはごきげんで浮き浮きと陽気だ。

いつだってひとのよるこび、人たちの間の平安を

いやまそうとしている。

ああ、小ちゃな子供たちの仲良し姿を眺めるのは

なんと仕合せなことだろう。

もし私たちがおたがいに気をつかいあい、

他人の重荷をみんなおたがいに背負いあえば、

人類はやがてすぐにも

幸福な一家のようになるだろう。

ああ、小ちゃな子供たちの仲良し姿を眺めるのは

なんと仕合せなことだろう。

(つづく)

(国立音楽大学)

懸賞論文募集のお知らせ

このたび、雑誌『幼児の教育』復刻を記念して、左記の要領で論文を募集することになりました。多くの方々、優れた論文をおよせくださいますことを、期待しております。

〔記〕

一、復刻『幼児の教育』を素材として、独自の考察を試みたものがあること。

一、応募期日 昭和五十五年九月末日まで

一、応募要領 ペン書き(またはボールペン)とし、四百字詰原稿用紙に四十枚以上百枚以内。上表紙に「復刻記念論文」と朱書の上、「論文題目」、「姓名」、「住所」、「所属」を記入のこと。

一、賞金及び賞品

最優秀賞	一名	賞金二十万円
二等賞	二名	五万円
三等賞	三名	一万円
参加賞	全員	記念品

一、問い合わせ及び応募先

〒112 東京都文京区大塚二―一―一 お茶の水女子大学附属幼稚園内 日本幼稚園協会『幼児の教育』編集部

主催 『幼児の教育』編集部

後援 株式会社コーディック